

女性医療の重要性と社会課題

私たちは「生命」にかかわる企業として、企業活動（価値ある医薬品を提供すること）を実施するだけでなく、ESGへの取り組みなど、サステナビリティを推進することで、社会の健全な発展への貢献を目指しています。サステナビリティの重要課題として特定する11のマテリアリティのなかには、あすか製薬ホールディングス独自の価値創造につながる「女性の健康への貢献」、「アニマルヘルスへの貢献」が含まれています。これらは、人々の健康と明日の社会に貢献するだけでなく、私たちの企業としての成長ドライバーそのものであると考えています。現在、女性の健康は、豊かな未来の実現に向けて社会を挙げて取り組むべき課題と捉えられています。私たちが専任部署を立ち上げて注力するフェムテック（女性特有の健康課題をテクノロジーで解決する商品やサービス）は、日本政府による「女性版骨太の方針2024（女性活躍・男女共同参画の重点方針）」においても、その推進が叫ばれています。私たちは「産婦人科領域のリーディングカンパニー」として、予防、検査・診断、治療そして予後も見据えながら、女性の健康をめぐる社会課題を解決していきます。

あすか製薬ホールディングス株式会社
代表取締役専務取締役 サステナビリティ担当
丸尾 篤嗣

女性特有の疾患の罹患数



※ 株式会社JMDC調査
(電子レセプトデータからの拡大推計値、各年1月～12月までの12カ月間)

月経随伴症状に関する予防行動をとっている人
(15-44歳)

1,020万人

※ 総務省 統計局「就業状態、主な活動状態別人口」『令和4年 労働力調査年報』
日本医療政策機構「働く女性の健康増進に関する調査2018」より推計

予防
ヘルスリテラシー
向上

女性の人口
(思春期以降女性15歳以上人口)

5,711万人

女性の労働者数
(雇用者数)

2,682万人

※ 総務省統計局『令和4年 労働力調査年報』より

検査・診断
産婦人科受診

月経困難症治療人数
225万人

※ 株式会社JMDC調査
(レセプトデータからの拡大推計値、
2022年1月～12月までの12カ月間)

月経随伴症状有症状者数
832万人

※ 経済産業省「令和4年度商取引・サービス環境の適正化に係る事業
(当事者参画型開発モデルの発展に向けた調査事業)」成果報告書
(PwCコンサルティング合同会社)より推計

女性特有の月経随伴症状による年間の経済損失

5,672億円

※ 経済産業省「女性特有の健康課題による経済損失の試算と健康経営の必要性について」より算出

あすか製薬の医薬品服用者数
52万人

※ エンサイスデータに基づく自社集計 無断転載禁止

治療

あすかの
価値提供

予後
女性の健康
への貢献